

第7学年○組 社会科学習指導案

指導者 磯山 将希

地理分野における資料活用力の育成
～多様な資料の読み取りを通して～

1 単元名 世界の諸地域 北アメリカ州

2 目標

- 北アメリカ州の自然環境や産業、生活・文化等の地域的特色について概観し、特にアメリカ合衆国の産業に対する関心を高め、主題を設定して意欲的に追究し、捉えようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 北アメリカ州、特にアメリカ合衆国の産業が発達している理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
(社会的な思考・判断・表現)
- 収集した資料から、北アメリカ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択し、それを基に読み取ったり図表にまとめたりしている。
(資料活用の技能)
- 北アメリカ州について、大陸と島々からなる自然環境、新しい文化、産業と経済の地域差などの特色を理解し、それぞれの基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の地理的分野「(1) 世界の様々な地域」のうちの「ウ 世界の諸地域」に含まれている。ここでは、各州に暮らす人々の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させることが求められている。そして、それぞれの州の地域的特色を理解させるために、学習指導要領解説社会編には、「基礎的・基本的な知識を習得する学習を行い、それらの知識を活用して中学校第1学年の生徒の生活と結び付く地理的事象を取り上げ、生徒の関心と結び付きやすい主題を設定し追究する中で、地域的特色が明らかになるように学習を展開していくことが大切である」と記されている。

今回取り上げる北アメリカ州では、主題を「大規模農業と工業の発展」と設定する。まず、ICT機器を活用しながら北アメリカ州の地形や気候の特色を大観させ、白地図などでまとめさせる。次に、アメリカの農業や工業の特色を各種資料から捉えさせ、大量生産の理由を気候や生産方法の面から、新旧の工業地域が発達した理由を統計資料や地図などから多面的・多角的に考察させ、書いたり発表したりする活動を行う。最後に、「アメリカの生活・文化」では、アメリカ式の文化が世界に広がり私たちの生活に入り込んでいることを認識させたい。本単元での、多くの資料から多面的・多角的に思考させる学習から、現代社会における「大量生産・大量消費」という価値観の見直しについても触れ、北アメリカ州の地域的特色の理解につなげるとともに、自分たちにも身近な問題だと認識させ自らの考えを表現させたい。

(2) 生徒の実態

事前アンケート結果 (在籍35人 調査人数35人 平成26年10月23日実施)

項目	結果
1 世界地図において、アメリカ合衆国の位置が分かりますか。	はい 30人 いいえ 5人
2 地図や資料を見比べて、その違いや共通点を答えることは得意ですか。	得意 12人 苦手 23人
3 分かったことを自分の言葉でノートにまとめたり、発表することは得意ですか。	得意 8人 苦手 27人

実態調査から見ると、アメリカ合衆国の位置に関する知識があり、既習事項は定着している生徒が多いと考えられる。しかし、資料を比較して考察することや自分の意見を表現する活動には苦手意識をもっている生徒が多い。今回の研究のねらいである、言語活動の充実や資料を活用する力に関して課題が残っていると考えられる。

(3) テーマに迫るための手立て

本時では、資料読み取りの際にICT機器（モニター）を使用する。モニターに拡大した資料を提示し、読み取るポイントを示して全員の理解を深めていく。また、複数の資料から有用な情報を取り出し課題に対する答えを導き出す場を設定する。多くの資料から有用な情報を見極めさせるための手立てとして、生徒一人一人の思考や判断を可視化するためのワークシートを用いる。さらに、資料の読み取りが苦手な生徒に対する机間指導の充実を図る。その結果、生徒が多面的・多角的に思考した表現ができるようにさせたい。

4 学習と評価の計画（4時間扱い 本時は2校時）

次 時	学習内容	関	思	技	知	評価規準
一	1 北アメリカ州をながめて	○			○	北アメリカ州の地形や気候、新しい文化、産業と経済の地域差などについて捉えようとしている。
	② 広大な国土と工業化した農業		○	○		大規模で合理的な農業の特色を、主題図などの資料を読み取って説明している。
	3 工業の発展と工業地域	○			○	アメリカの工業地域について、工業の種類と発展した理由について図表にまとめている。
	4 アメリカで生まれた生活・文化		○	○		アメリカの生活や文化が世界に影響を与えることに関心をもち、大量生産・大量消費について自分の意見を述べている。

5 本時の学習

- (1) 目標 「世界の食料庫」といわれるアメリカの農業を、気候や生産方法の面から多面的・多角的に考察し、その特色を説明することができる。
- (2) 準備・資料 モニター、パソコン、ワークシート、資料
- (3) 展開

時間	学習内容及び活動	授業形態	支援・援助の留意点及び評価方法 ○は評価の観点(方法)※テーマに迫るための工夫
5	1 前時の振り返りをする。 2 本時の課題を知る。 どうしてアメリカ合衆国は、これだけの食料を輸出できるのだろう。	一斉 一斉	・北アメリカ州の気候については主に降水量の違いについて確認する。 ・課題について考える活動を取り入れる。
10	3 様々な国の食生活からアメリカ産の農産物について考える。 (1) 様々な国での食生活を想像する。 ・資料を提示し、アメリカ・フランス・日本の代表的な料理とその材料について考えさせる。 (2) 主な農産物の生産国を知る。	個人	※アメリカの料理についてはハンバーガーやステーキと記入する生徒が多いと考えられるので、そのことからアメリカ人が牛肉や小麦を多く生産し消費していることに気付かせる。出てきた意見を肯定的に評価する。
20	4 アメリカの農業の特色を、フランス・日本との違いから考える。 (1) アメリカ・フランス・日本の農業比較の資料から、アメリカの農業の特色を考える。 (2) アメリカの気候・農業分布の資料から、農業の特徴を考える。	個人	※アメリカとの経営規模を比較した資料を提示し、アメリカの経営規模の大きさと生産量の多さに気付かせ、それを可能にしたのが大型機械を使用した企業的経営、バイオテクノロジーを利用した品種改良であることを考えられるようにする。 ※降水量の境界線を示した資料と見合わせて、気候や土壌といった自然環境に合った作物を作る「適地適作」が行われていることに気付くことができるようになる。資料はモニターでも掲示する。
15	5 本時のまとめと次時の学習の確認をする。 まとめ例： 地域の気候に合わせた適地適作と、大型の機械を使い、バイオテクノロジーの技術を駆使した大規模な農業が行われているので、生産性が高いから輸出できる。	個人 一斉	○大規模で合理的な農業の特色を、主題図などの資料から読み取ることができる。 (観察・ワークシート) ・アメリカが「世界の食料庫」といわれるほど農産物を大量生産できる理由を、自然的条件と生産方法の二面から説明できるように助言する。 ○北アメリカ州の農業の特色を多面的・多角的に説明することができる。 (観察・ワークシート) ・書く内容に戸惑う生徒には、机間指導において「適地適作」「大型機械」「バイオテクノロジー」といったキーワードを伝える。